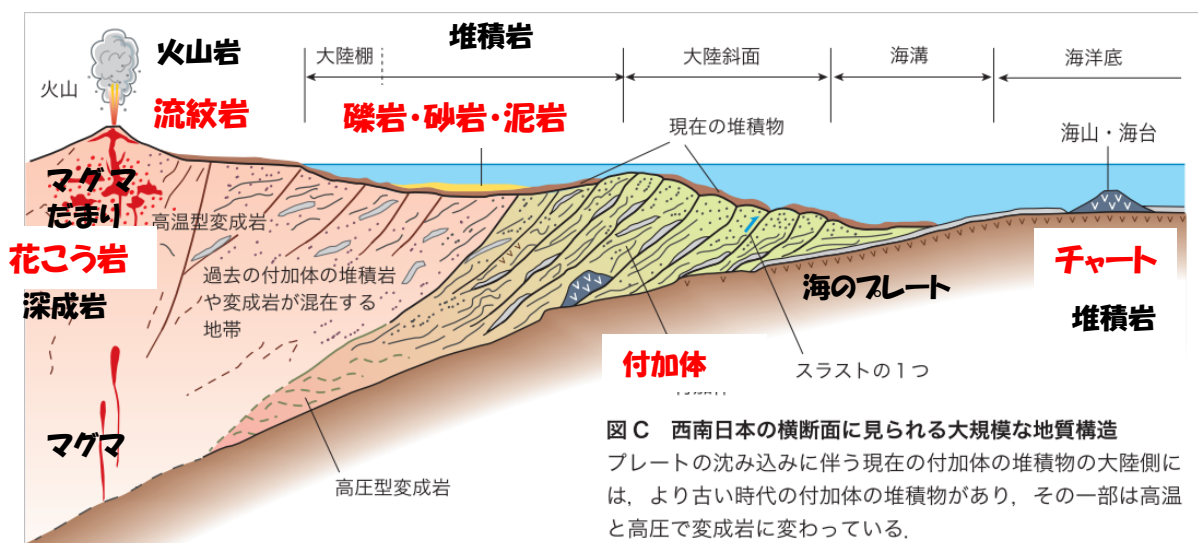


## 観音山や神戸常盤女子高校の地質

神戸常盤女子高校 西川 徹

### ※ 観音山で見つかる岩石や地層の説明

- ・ **チャート**・・・堆積岩 古生代のペルム紀（3億年前）に、太平洋の深海底に放散虫というプランクトンの遺骸が集まってできた。海のプレートの運動で中生代のジュラ紀（2億年前）に数千kmの旅をしてきた。プレートは沈み込んだが、チャートは日本列島に付け加わった。（付加体という）「丹波層群」
- ・ **流紋岩**・・・火成岩（火山岩） 中生代（7000～8000万年前）恐竜がいた時代。日本はまだアジア大陸の一部だった頃、激しい火山活動が広い範囲であり、火砕流や溶岩として流れ出した。「有馬層群」
- ・ **花こう岩**・・・火成岩（深成岩） 中生代（7000～8000万年前）恐竜がいた時代。日本はまだアジア大陸の一部だった頃、流紋岩が地表に噴き出していたと同じ時期に「マグマだまり」が地下深くでゆっくり冷え固まってできた。その後、隆起して六甲山となった。六甲山は花こう岩でできている。大阪湾などの沈降した場所では花こう岩は地下深くに存在する。
- ・ 地層中の**礫・砂・泥**・・・六甲山の隆起に伴って、その上にたい積していた岩石（丹波層群）が風雨により浸食され川により運ばれ川原や海岸、海底や湖底に堆積した。その後、隆起して今の観音山や神戸常盤女子高校の丘陵となった。神戸常盤女子高校の周辺は「大阪層群」という新生代（90万年～100万年前）の地層である。



図C 西南日本の横断面に見られる大規模な地質構造  
プレートの沈み込みに伴う現在の付加体の堆積物の大陸側には、より古い時代の付加体の堆積物があり、その一部は高温と高圧で変成岩に変わっている。